

講演情報

一般口演

骨誘導, 骨造成, GBR, サイナスリフト, ソケットリフト, 検査, 術前管理, モニタリング, 麻酔, 術後管理, 診査・診断

2019年9月21日(土) 14:15 ~ 15:05 第3会場 (福岡国際会議場 4F 401+402 +403)

座長: 小野 真司 (大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座クラウンブリッジ補綴学分野)

[O-1-3-18] 骨質関連生化学マーカーとサプリメント（乳由来多機能性蛋白）の有意差検定

鈴木正史, 秋知明, 若月喜仁, 田中かずさ, 荒川勇喜, 石井淳, 奥寺俊允, 奥寺元
(東京形成歯科研究会)

I 目的: 私どもはインプラント周囲炎症例と長期成功例を比較した際, 骨代謝マーカーや架橋構造マーカーに差は見られることを報告し, 乳由来多機能性蛋白ラクトフェリンが免疫, 抗菌, 骨形成に関与することから骨代謝マーカーに変化をもたらす内容を発表した. 今回骨代謝マーカーでの臨床的安価で簡便な尿中・血清中のI型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) のみにフォーカスし, 有意差検定とその確率を検討し臨床において如何に応用できるかを検討した.

II 材料および方法: 乳由来多機能性蛋白 (NRL社製ラクトフェリン) のサプリメントを健康増進の為に服用している患者を対象に, 定期的に血液検査, 骨規定マーカー測定を行った患者を抽出し, その後ろ向きデータでの解析で骨吸収マーカー [血清中NTx, クレアチニン補正後の尿中NTx, クレアチニン補正後のデオキシピリジノリン (Dypr) 及びコラーゲンの架橋構造に関連するホモシステイン], 骨形成マーカー [骨型アルカリホスファターゼ (ALP)] 等の数値を比較検討した. 測定は検査所保健科学東日本総合ラボに依頼し分析した. 統計解析は, t検定で行った.

III 結果: 骨吸収マーカーのうち, 尿中NTxは有意に減少した. ホモシステインは減少傾向を示したが, 有意差は認められなかった. 骨形成マーカーであるALPは上昇傾向を示したが, 有意差はなかった.

IV 考察および結論: ラクトフェリンの持つ多種多様な働きで炎症や免疫力・骨代謝に関与することで, 炎症抑制及びコラーゲン架橋破壊を抑制と骨形成に今回有効であったことから, インプラントの長期保全の可能性が考えられることが示唆された. 特に骨代謝マーカーでは測定は意義深く, 今後更にインプラント歯周炎から採取した歯肉溝滲出液: サイトカイン濃度 (IL-1 β , IL-6, IL-8, TNF- α), 歯肉溝滲出液: 口腔内細菌DNA検査を行い関連性を追及したい.

(倫理審査委員会番号17000114承認 承認番号18201)